



2023年10月1日発行
(毎月1日発行)
1984年8月15日第3種郵便物認可
発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739
熊本市中央区段山本町4-1
Tel 096-353-6397(代)



熊本県医師会会長 社会医療法人愛育会福田病院理事長
熊本YMCA元常議員・理事 本館運営委員 熊本ワイズメンズクラブ
福田 稠 さん

1948年10月に発足した熊本YMCAは、今年度創立75周年を迎えました。75年前の初代理事長として福田令寿さんがその役を担われ、熊本YMCAの歩みが始まりました。今回は、福田令寿さんのお孫さんであり、幼少期から熊本YMCAに関われ、現在も会員である福田稠さんに、熊本バンドから現在の熊本YMCAへの変遷、ご自身とYMCAとの関わりについて寄稿をしていただきました。

この度、熊本YMCA創立75周年誠におめでとうございます。皆さん御承知の様に、YMCAは1844年イギリスのロンドンで12人の青年が集まり誕生したものです。当時のイギリスは産業革命によって工業や産業の発展は目ざましいものがありました。ただその影に、年端もいかない少年たちが工場で酷使される等苦しく悲しい側面もありました。そこで、ロンドンの洋服店の店員であったジョージ・ウィリアムズとその仲間たち12人が、イエス・キリストの教えに基づき『愛と奉仕』の活動を始めたのです。そしてこの集まりをYMCA (Young Men's Christian Association) と名付けました。その後この活動は世界中に広がっていきました。日本では1880年東京で始まり、初代会長は熊本洋学校出身で新島襄を継ぎ二代目の同志社

熊本YMCA創立75周年に寄せて

総長になった小崎弘道です。小崎弘道は、YMCAの日本語名を、Young Men's を自ら新たに作った言葉『青年』と訳し、『キリスト教青年会』としました。現在では日本中に拡がり、教会でもない学校でもないキリスト教に基づく社会教育の場として活動を続けています。

福田令寿は熊本のYMCAの活動を5期にわけています。第一期1876年熊本バンド、第二期夏期学校と熊本英学校、第三期花陵会の結成、第四期1900年代、中津親義を中心としたシティYMCAの誕生、第五期現在の熊本YMCAです。この度の熊本YMCA創立75周年は第五期のYMCAの事です。

昭和23年に熊本YMCAがシティYMCAとしてスタートしました。在熊の学生YMCA出身者、九州女学院の江藤安純先生(東大学生YMCA)、九州学院の池永春生先生(早大学生YMCA)等、多くの熊本のクリスチャンに呼びかけて熊本YMCAは設立されました。それから、これまでの75年の歴史を振り返ってみますと決してなだらかな道程ばかりではありませんでした。戦後の混乱の中でのスタートで初代主事の淵田多穂理さんはじめ福島・佐藤・山口等の歴代主事の方々の御苦労は並大抵のものではなかったと思います。大きな水害もありました。大きな地震も経験しました。さらに現在のコロナ禍です。多くの先達のお働きに感謝いたします。

私個人に関しては、古城町のYMCAのごく近所に住んでいましたから、YMCAの日曜学校に時々行っていました。小学校の高学年になると夏の阿蘇キャンプに参加し、さらにボーイスカウト第9団※に入団し富士野営や国内のジャンボリー、さらにギリシャで開催された世界ジャンボリーにも参加しました。このボーイスカウトの仲間は、現在も数多く熊本で活躍しており心強い相談相手です。

大学の医局や勤務医の時代は、YMCAとの距離が遠のきましたが、開業してから、確か産婦人科の先輩の朝比奈先生からのお誘いで熊本ワイズメンズクラブに入会しました。後に常議員や理事を務めさせていただきましたが、たいしてお役に立つ事はありませんでした。現在熊本YMCAは、段山に新築移転、新しい旅立ちが始まっています。移転につきましては、混乱もありましたが、光永総主事のお働きで、正常な軌道に戻ってきました。そのお働きに心から感謝いたします。

私のYMCAとのおつきあいの中で、YMCAの運営については、三つの要素があると思います。一つは総主事の手腕、二つ目は理事会機能、三つ目はワイズメンズクラブや常議会メンバーのパワーです。そして3つの要素のバランスが極めて重要です。ワイズメンズや常議会の皆さんのパワーやエネルギーはYMCAの宝です。ただ、これが暴走してはいけません。それを正しくコントロールするのが理事会の機能、それをすぐれた形で実現するのが総主事手腕といえましょう。かつて総主事は単なる平理事でした。現在は理事長兼任です。その責任は重くなりますが、経営の視点からは正しいあり方だと思います。光永総主事は熱心なキリスト教徒でさらに優秀な経営者です。光永総主事のもと熊本YMCAが、これまでの75年の歴史を礎として、さらなる飛躍をとげられる事を期待しています。

※熊本YMCAは1949年にボーイスカウトを結成。1969年度まで熊本県連第9団として活動した

Pickup

熊本YMCA学院
オープンキャンパス特別版
ホテル日航熊本を見学



熊本YMCA
常議員研修会

みんながんばったね
YMCA尾ヶ石保育園
運動会



Information

行こう 見よう 深めよう

YMCAフィランソロピー協会 講演会
「こどもまんなか熊本」実現のために講演会
×
社会貢献

未来を担う子どもたちが、愛情あふれる家庭と豊かな地域社会の中で心身ともに健やかに成長できる環境をつくることは、今を生きる私たちの使命とも言えます。

熊本の発展と熊本を育む人材の創出を目指して、私たちが取り組むべきことについて共に考えましょう。

日 10月13日(金) 17:00~18:30

場 KKRホテル熊本(熊本市中央区千葉城町3-31)

講師 熊本県健康福祉部 子ども・障がい福祉局 子ども未来課 課長 木村和子さん

費 無料 定 30名

催 YMCAフィランソロピー協会

申 10月9日(月)までにWebで

障がいの有無にかかわらず
幸せに生きていける社会を
インターナショナル・チャリティーランチャリティ
×
交流

YMCAインターナショナル・チャリティーランは、障がいの有無にかかわらず全ての子どもたちが、ともに幸せに生きていける社会を目指して、全国のYMCAで開催しています。第8回熊本大会は、期間中に各自で行ったラン・ウォーク等の距離をオンラインで申告し、総合距離2,023kmを目指します。

オープニングラン

日 11月26日(日) 10:00~12:30

場 益城町総合運動公園

リモートでの距離申告

日 11月26日(日)~12月3日

(日) 費 個人(小学生以下)

500円/個人(中学生以上)

2,000円/ファミリー 1家族 3,000円/チーム(5~10

名) 10,000円他 ※益金は、YMCAの障がい児支援プ

ログラムに用いられます。お申込みはWebで(10月5日

~)。 問 熊本YMCA 本部事務局 Tel 096-353-6397



専門学校 熊本YMCA学院 願書受付開始

「専門教育」「キャリア教育」「人間教育」に取り組む専門学校熊本YMCA学院の2024年度願書受付が始まります。詳細はWebサイトでご確認ください。



建築科・ホテル観光科・
医療秘書科・
健康スポーツ科・
こども保育科



社会福祉学科・精神保健福祉学科

問 YMCA学院 Tel 096-353-6393

学科	目指せる職業・資格など
一級・二級建築士をめざす 建築科	インテリアデザイナー・住宅設計・建築設計士・ 建築施工管理技士
東京YMCA国際ホテル専門学校連携 ホテル観光科	ホテル・観光・ブライダルコーディネーター・ レストランサービス技能士
日本医師会認定医療秘書養成校 医療秘書科	医療秘書・医師事務作業補助・医療事務
スポーツ指導現場との連携 健康スポーツ科	スポーツインストラクター・健康運動実践指導者・ NSCA認定パーソナルトレーナー・介護予防運動指導士
指定保育士養成施設 こども保育科	保育士・幼稚園教諭
社会福祉学科 通信制	社会福祉士
精神保健福祉学科 通信制	精神保健福祉士

YMCA水前寺幼稚園・YMCA熊本五福幼稚園
2024年度見学説明会

YMCA水前寺幼稚園・YMCA熊本五福幼稚園の願書受付を11月1日から開始します。願書受付を前に、見学説明会を実施中です。

YMCA水前寺幼稚園

10月4日(水)・10日(火)・20日(金)

問 Tel 096-362-4141

YMCA熊本五福幼稚園

10月4日(水)・12日(木)・20日(金)

問 Tel 096-352-2981



日 日時 場 会場 内 内容 費 参加費 定 定員 案 参加条件 持 持ち物 対 対象 催 主催 締 締切 申 申込 問 問合せ 他 その他

COM・PASSION II

おもいやりとやさしさ Vol.21

総主事 光永 尚生

熊本YMCA75周年にあたり考えたこと
AIを考える時には「人間的な科学が必要」
～AIは異星人の知性なのか～

ドイツの著名な哲学者である、マルクス・ガブリエル氏はAIに関するインタビューの中で、「人間とは、自然とテクノロジーの複合体である。」という命題を整理すべきであると主張しています。彼はAIをAlien Intelligenceと呼びます。そし

て、AIの脅威とは何かという問いかけに、「悪用すること」と答えています。そして、AI=Artificial Intelligenceについていえば、「プライバシーを侵害してはならない」といった普遍的な倫理原則と、各国・地域にあるローカルな倫理の組み合わせによって対応することになるだろうと述べました。これまでの科学万能主義とは異なる道を探らなければならないし、人間的なテクノロジーの発展を推奨しています。そして人類の祖先がアフリカを北上し、長い旅をして日本やポリネシアといった島々にまでたどり着いたことは、現代のテクノロジーの発明よりもはるかに大きな偉業である。想像を絶する困難を乗り越えられたのは、「人間が心の奥深くで神や精霊などの超越的な存在を信じ、より善く生きる

努力をしてきたからだ」と考えています。そして「我々には、未来を守る義務がある。それが、『人生の意味とは何か』という問いへの私の答えである。」と結んでいます。

私たちのYMCAの活動を通して、未来を守るために倫理をどう持続可能なものにしていくのか。YMCAのプログラムの価値を考える時の示唆を与えられているようです。私たちは、未来を守るために今何ができるのでしょうか。まずは、熊本YMCA創立75周年の記念の年にあたり想います。未来が存在するために、私たちが今できることは、平和な世界を守り、継続して蓄積していく事ではないでしょうか。AIを私たちの知性として用いたいものです。明日は、今日が過去になります。

R | E | P | O | R | T

平和

平和を実現するためにできること 国際青少年平和セミナーに参加

16 中絶は生まれてから
すべての人に
平和を

8月4日(金)～6日(日)、広島YMCAを拠点に開催された第43回国際青少年平和セミナーに熊本YMCAからYMCA学院の学生1名と職員1名が参加しました。国内からは北海道、和歌山、東京、広島、国外からはインド、台湾、韓国のユース約20名が集まりました。

被爆者証言や平和記念資料館、慰霊碑巡りを通して学んだことをもとにディスカッションし、「平和な世界を実現するために私たちができることは何か」を考え、形にしていって3日間でした。ユースたちはグループにわかれて、平和への想い、次の世代につ

たえたい事を絵本や紙芝居、歌に表現しました。

ユースの皆さんには、今回の経験をこれからの人生の糧として、学んだことを多くの人に伝え、広島での出会いを大切に、この先も色々な人とつながってほしいと思います。

今、私たちが生活を送ることができることは決して当たり前のことではありません。78年前、犠牲になってしまった方々のことを思い、今、生活を送ることが出来ることに感謝しながら、一日一日を大切に生きていきたいと思います。

YMCA水前寺幼稚園 森下唯



国際

異文化交流の機会を 盲学校の生徒らが韓国で交流

4 目の悪い教育を
みんなに

8月7日(月)～10日(木)の4日間の日程で、「第36回日韓青少年交流」が行われました。視覚に障がいを持つ青少年にスポーツや文化を通して、限らない可能性の再発見と国際交流の場を提供することが目的。熊本県立盲学校、ユース、熊本ワイズメンズクラブ、YMCA職員あわせて10名が韓国大邱市を訪れました。

2日目には光明学校を訪問。同学校は大邱大学の敷地にあり、特別支援を幅広く行っています。施設内では歩行訓練施設や運動施設、マッサージ演習施設などを見学。その後はアロマ香水作りや軽ス

ポーツ体験をしました。軽スポーツはボールの音をたよりに相手ゴールをねらうもの。白熱したゲームが繰り広げられました。さらに大邱YMCA青少年会館ではプロのボーカリストによるK-POPのレッスンを受け、流行の歌のフレーズをみんなで楽しむなど盛りだくさんの4日間でした。

韓国料理も楽しみ、異文化交流を経験した盲学校の生徒たち。「日本開催の時には一緒にお好み焼きを作って食べたい」などの感想が寄せられ、再会を楽しみにしている様子でした。

むさしセンター 辻健太郎



子ども

被災児たちに大自然の癒しを あそぼうキャンプ

3 すべての人に
健康と癒しを

8月18日(金)～20日(日)、「阿蘇」の地で、次代を担う子どもたちが、未来を「望む」という願いを込めた「あそぼうキャンプ」を、4年ぶりに実施しました。第9回を迎える当キャンプは災害によるトラウマのケアを目的としたもの。今回は、熊本豪雨災害にて大きな被害を受けた球磨村の小学生を中心に、23名のメンバーが相互の交流と絆を深めました。

YMCA阿蘇キャンプを拠点に、精神科医や臨床心理士、小児科医やカウンセリング、キャンプの専門家がサポートし、メンバーに寄り添います。1日目は水遊びや、グループワークを通して交流。2日目の乗

馬は、馬に身をゆだねることで心身ともにリラックスできた様子でした。火おこし体験、ピザづくり、麺づくりにも挑戦し、「できた」の喜びをかみしめていました。2日目の夜のキャンプファイヤーでは、テーマソング「にじ」の替え歌を披露しました。

参加した子どもたちからは、「みんなとたくさん話ができたとうれしかった」「また、キャンプに参加したい」などの感想がありました。自然は脅威と共に、癒しを与えてくれる。そのことを実感できる3日間でした。

御船町スポーツセンター 本田奈緒子



SDGs

互いに学び合い社会貢献を YMCAフィランソロピーセミナー

17 パートナリシップで
目標を達成しよう

9月6日(水)、YMCAフィランソロピー協会が今年度3回目となるYMCAフィランソロピーセミナーを「事例から学ぶ 今、企業が取り組むSDGs」をテーマに開催しました。リコージャパン(株)熊本支社を会場に、株式会社セブン-イレブン・ジャパンと大東商事株式会社が事例発表をしました。

セブン-イレブン・ジャパンはセブン&アイグループが取り組む「GREEN CHALLENGE 2050」の中から事例を発表。プラスチック素材の削減、CO2排出量削減、食品リサイクルなど、全国の取り組みを紹介

したほか、様々な年代、勤務体系の社員にSDGsを広めていくために、「正しい言葉で伝えること」「効果の見える化を図ること」「楽しみながら行うこと」の大切さが語られました。産業廃棄物処分量・収集運搬業などを行う大東商事は、環境型ビジネス形成のための協業を進める取り組みを解説。利益追求が基本となる民間企業も、互いに協力することで負担の軽減をしながら公益を追求することができるのではないかと参加者にメッセージを送りました。

ICR 大塚永幸



スピーチ大会

留学生が学習の成果を発表

9月13日(水)熊本市国際交流会館を会場に、熊本YMCA学院日本語科が日本語スピーチ大会を開催しました。これまでの学習の成果を発表すると同時に、互いの交流を深めてもらうことが目的。113名が参加した予選を突破したネパール、ベトナム、中国、フィリピンからの留学生9名がそれぞれの経験や思いを語りました。

1位から3位に輝いた皆さんのスピーチ内容を一部抜粋してご紹介します。

私と日本語の関係

皆さんと日本語の関係は
どうですか？仲がいいですか？悪いですか？私は、日本に
来た時はとてもとても日本語と仲が悪かったです。周りの人の言葉が全然分かり
ませんでした。でも、自分を
奮い立たせました。3カ月、6
カ月経つと、先生たちのおか
げで何とか日本語が理解できるようになりました。

でもまだ私と日本語の関係はよくなかったです。ある日、先生が「今朝何を食べましたか」と聞きました。私は「卵を食べました」と答えました。さらに「どうやって
作りましたか？」と聞かれました。私は頭の中で「鍋に油を入れて熱したら卵と塩を入れて…」と考えました。でも口から出たのは「あの、えっと…あの…」。考えていると先生が「鍋ですか？」と助けてくれました。先生は「大丈夫ですよ。緊張しないで」といつも励ましてくれ
ます。

日本に来て1年以上になり、自分の気持ちを日本語で伝えられるようになりました。今は、私と日本語は仲がいいと思います。

今日、皆さんが日本語をうまく話せるかどうかは問題ではありません。大事なのは明日少しでもよくなっているかどうか、1カ月後に少しでも成長しているかどうか、1年後に継続できているかどうかです。諦めずに続けましょう。そして続けた自分をほめましょう。継続は力なり。



ALINA LAMAさん
中級クラス
ネパール出身

私の尊敬する父

私の父は警察です。
父はいつも私の自慢です。警察はみんなの安心を守るので、みんなは尊敬してくれます。深夜や祝日でも働かなければなりません。

子どもの頃は父の仕事が嫌いでした。お正月の時、みんなは集まって一緒にご飯を食べます。大好きな時間ですが、父はいつもいませんでした。母に「どうしていつもお父さんはいないの」と言いました。その頃は父は一人で遊びに行っていたのだと思います。父が何度も説明しても私は泣きました。「みんなの安全を守らなければならない」と言われても、その時は意味が分かりませんでした。大人になってよく分かりました。

小学生の時、私はいじめられました。父は怒り、すぐに学校に来て、私をいじめた人に会いました。それからは、私はだれからもいじめられませんでした。

今、父は年をとりました。警察の仕事も辞めざるを得ませんでした。父の身体も弱くなりました。しかし、家族の時間が増えています。父には「お父さんは家族のために一生懸命働いてきたので、今から好きなことをやって。心配しないで。私は大人になったので家族を守ることができます」と伝えたいです。



HO THI LYNAさん
中級クラス
ベトナム出身

恥ずかしい出来事

去年の9月に日本に来てから、もうすぐ1年です。この1年の間に私の日本語も少し上手になりました。でも、日本語を知らないために恥ずかしい経験をしたことがあります。

日本へ来て間もないころ、学校が始まる前に、夫とレストランへランチを食べに行きました。食べ終わった後、私は夫に中国語で「ティッシュを持ってきて」と言われたので、レジに行って店員さんに日本語で「手紙はありますか？」と言いました。店員さんは唖然とした表情で私を見て、「すみません。手紙はありません」と言いました。私は席に戻って、夫に中国語で「ティッシュはない」と伝えました。夫は中国語で「レストランでティッシュがないなんてあり得ない。何と言ったの？」と聞きました。私が言った事を伝えると、夫は大笑いしました。実は中国語では、ティッシュのことを「手紙」と書きます。でも日本語の「手紙」は中国語の意味とはちがいます。私は完全に間違えてしまいました。本当は私は「ティッシュ」と言わなければならなかったのです。

今は前より日本語が上手になりましたが、今でも時々思い出して、恥ずかしくなります。これからもこの単語は絶対に忘れないでしょう。



時雨杰さん
初級IIクラス
中国出身

わたしと聖句

日本基督教団熊本城東教会
中村英之



テモテへの手紙24章7節

わたしは、戦いを立派に戦い抜き、決められた道を走りとおし、信仰を守り抜きました。

決められた道

この聖句は教会の葬儀で、よく説教に用いられます。人がこの地上の信仰生活を全うし、ついに神に召され、義の冠を得るといふ恵みの御言葉です。その一方で、いまだこの地上で信仰の戦いを生きているわたしたちにも恵みの御言葉です。

わたしは特に「決められた道」という言葉に、牧師生活における希望を見ます。大変なこともあるいるあつて、将来の見通せないこともありまう。しかし、それすらも「決められた道」である。神はわたしたちの歩むべき道を定められているのです。だから、たとえ行き詰っても、道は続いていく。ここから神はまた新しい決められた道をわたしに示し、導いてくださる。だからこの先にどんな道があつたとしても、主なる神を信頼して、主なる神に誠実に生きればよい。これがわたしの信仰の確信なのです。少子高齢化の最前線を行く教会の存続は、人の目から見ればその将来は厳しいものです。それでも教会は、またわたしもこの信仰に立って、決められた道を走りとおしていきます。

焦って、自分の力を超えて、いち早くだれよりも先にゴールする必要はないと思います。こちらより先に、ゴールである主の方からわたしたちに近づいてくださるからです。みなさんは走りについて、くたびれてはいませんか。主なる神の方から来てくださるのですから、わたしたちはその決められた道を走りとおすこと、信仰を守り抜くことこそ大切なのです。

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区段山本町4-1
TEL 096-353-6397(代)
発行人／光永 尚生 編集人／大塚 永幸
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



Facebook

熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2023年度基本聖句

マタイによる福音書7章7節

求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。